

新聞圖會 第三

實ニ天罰ハ恐るべし 祝迎誕會の夜ニ

當り大阪近在本庄村ニ入殺し有殺され

京の徳松と云壯年之其場ニ有し行と云

女を糾問有し小梅之縁ある北野の

熊と云と云私の情郎が殺しありと

と云故熊を責れが苦痛堪々

竹と徳とが違華洲の上と

轉ぶを見附煩悩止と

守り掛ありとと白状

就冥鬼とあるべきを

竹の相嫉怪しと云

大因と云と問落し

熊と証し極まりて

熊ニ命助かりぬ然る小行ハ其日より痘と

蠱毒と云同殺して痛陀の忌日と燐燈の願

引渡されり此頃ハ淨破璃の鏡より罪の次第

を明白ありんと冥府の電信待との事と

行が生れ丹波国氷上郡本郷村親代と



八尾善徳

あり平三

舟本翁
都鳥

英
婦あり

上下の
物を

自由の
家と

脱走し
始り

搬入する
罪

...

